

◎ 3年生 | 「花と実をしらべよう」

いろいろなたねを集めて標本を作ろう

3年生の植物の単元では、ホウセンカを育てて、花が咲き終わった後にたくさんの実（たね）ができることを学習します。ホウセンカの実は、指で触れると皮がよじれ、たねが飛び散るので子どもたちは大喜びです。

「たねが飛び散るのは、どんなことにいいからかな？」

「たねが遠くに行って、なかまをふやすのにいい」

ホウセンカだけでなく、植物はいろいろな場所で子孫が生き延びていくように、たねを何らかの方法で散布しています。くるくる回って風に飛ばされたり、人や動物にくっついたり。ホウセンカをきっかけに、いろいろな散布の仕方をするたねを集めてみましょう。

たくさん集まったら、標本を作るのも楽しいです。

○ くるくる回って落ちるたねを探そう！

～マツ、ヒマラヤスギ、カエデなど～

校庭や公園のマツの木の下を探してみましょう。マツボックリの近くに、1枚ばねのついたマツのたねが落ちています。ヒマラヤスギは都会の中の公園にもよく植えられています。木の根元にたねを包んでいた鱗片りんぺんが落ちていたら、大きな1枚ばねをもつヒマラヤスギのたねもきっと見つかります。



▲(左から) マツ、ヒマラヤスギ、カエデ

○ 風に飛ばされやすいたねを探そう！

～タンポポ、ススキなど～

タンポポが綿毛でたねを飛ばすことは子どもたちはよく知っています。春だけでなく1年中咲いている地域もあるので探してみましょう。タンポポだけでなく、キク科の植物は綿毛を作るものが多いので、秋にも空き地や田んぼの近くなどで容易に綿毛のついたたねを見つけることができます。

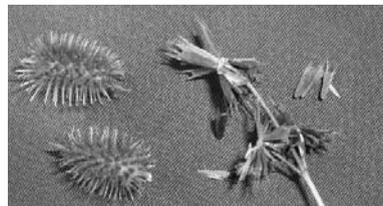


▲アザミのたね(綿毛)

○ くっついて運ばれるたねを探そう！

～アメリカセンダングサ、オナモミなど～

公園の周りなどにある藪の中を歩くと、ズボンの裾にたねがついていることがあります。それらのたねを虫めがねでよく観察してみると、カギのようなトゲがあったりして、引っ掛かりやすいしくみになっていることがわかります。



▲(左から)オオオナモミ、アメリカセンダングサ

○ たねの標本を作ろう！

～CDケースやクリアボックスを活用して～

いろいろなたねが集まったら、それらを整理して標本を作りましょう。黒画用紙の台紙に、たねをボンドで貼りつけ、名前のラベルをつけます。たねの厚みや大きさによって、CDケースやクリアボックスなどに入れるといいでしょう。本物のたねの標本の完成です。



▲CDケースを活用したたねの標本